

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470301108
法人名	(有)アルファルファ アンド カンパニー
事業所名	グループ 太陽の家
所在地 (電話番号)	鈴鹿市西條町495-1 (電話) 059-383-8383
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 6 月 24 日(火)

【情報提供票より】 (H20年6月2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.7人	

(2)建物概要

建物構造	2×4木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~85,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有(円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(1,000,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	実費 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6 月 2 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.33 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	玉田医院 フレンド歯科 鈴鹿中央病院 湯浅整形
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大型商業施設に囲まれた地に建てられた事業所は、1階にデイサービスセンター、2階をグループホームとしている。内部は広く、すべてバリアフリーで高齢者が安心して過ごせる優しい住居である。介護に対する事業所の方針として、事故を恐れすぎず、出来る限り個人の自主性を大切にした散歩や行動を「一歩ひいた見守りの介護」の実践に取り組んでいる。これからも家族との信頼関係をより強くし、自由で束縛のない生活を目指し、管理者を始め職員が一緒になって取り組んでいる。また毎月1回開かれる職員会議では、利用者にも参加してもらい、自分たちがしたいこと、行きたいところなどを聞き出し、ケアサービスの質の向上につなげている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年行われた外部評価の結果を職員全員で読み検討を重ね、改善できるものから順次改善を行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、自己評価を管理者が作成し全職員に説明をしている。出来れば今後は、自己評価の作成段階から全職員が参加することが望まれる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	構成メンバーを決めたが、まだ運営推進会議は開かれていない。一日も早い開催が望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が年に4回開催されるので、その中で話し合ってもらう。その時間帯は職員は席を外し、意見が出やすいようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	事業所は大型商業施設に囲まれ住宅もなく、地域住民との交流は難しいが、保育園、小学校、中学校との交流を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人(組織全体)としての理念「地域の高齢者福祉の一翼を担いに喜び二に笑い三に愛情をもって……」と明確な理念を掲げ日々の介護に生かしている。	○	現在は法人としての統一理念を掲げ、利用者の支援をしているが、出来れば事業所独自の理念を作り上げることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月一回行われるケアカンファレンス及び職員会議で話し合い、理念の共有をはかり実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は周囲を大型商店に囲まれており住宅地はなく、地域住民との交流は難しいが、各商店へ挨拶に行き、非常時の応援等をお願いしている。保育園、小学校、中学校に積極的に働きかけ交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、職員共に評価の意義を理解し、外部評価の結果も話し合い改善につなげている。	○	自己評価は、管理者が作成し職員に見せている。出来れば、自己評価の作成も全職員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議メンバーの構成が決まり、近日中の開催を予定しているが、まだ実施されていない。	○	一日も早く運営推進会議を開き、サービスの質の向上に取り組まれることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在はインターネットを通じ、利用状況等を行政と連絡しあっている。また介護相談員も受け入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人発行の便りを年に複数回発行している。金銭管理も、年に4回開催している家族会の時に確認をもらっている。	○	便りをより充実した内容で家族の期待に応えられるよう、事業所独自の便りを発行されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や苦情申し立て方法の案内が、玄関に掲示されている。また家族会の話し合いには事業所側は席を外し、意見が出やすいように図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での職員の異動は行っていない。止むなく職員が退職する場合は、利用者で紹介し、ダメージを少なくするように図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には全職員が公平に参加できるようにすると共に、それぞれ職員の技量に合わせた研修が受けられるよう取り計らっている。受講報告書も提出し、全職員が見れるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は職員も含め行っている。また近隣事業所とは協力しあい、大型ショッピングセンターを借りて作品展を開催している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設されているデイサービスからグループホームへ入居される方が多いが、その場合は馴染みの問題は無い。突然の入居の場合は家族の訪問を多くしたり、職員も出来るだけ利用者との接触を多くして、徐々に馴染めるよう行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との会話を多くし、信頼関係を構築して楽しい日々が過ごせるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から本人の希望等を聞きだし、日常の支援に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回行われるケアカンファレンスで各職員の意見を聞いたり、業務日誌等を参考に計画担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在3ヶ月に一度定期的に見直しを行っている。利用者の様態が急変し対応できない場合は、即見直しをしている。見直しをした計画書は家族に説明し、同意を得た上コピーを一部渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じてお寺を訪問したり、またドライブを楽しみながら各利用者の実家を見たりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が提携医をかかり付け医としている。利用者の急変時は即対応が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は希望する家族には終末期まで見る方針を伝えている。事業所内にはターミナルケア委員会も設置されており、必要時には開催するようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩と敬い、プライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。個人情報の取り扱いにも十分に注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の方針でもある「一歩ひいた見守りの介護」を実践すべく、利用者の希望を優先して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材調達や調理は業務委託をされているが、ご飯を盛り付けたり、配膳、食器等の後片付け等は、利用者と職員が一緒になって楽しそうにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には毎日でも入浴の支援をしている。入浴時間も利用者の希望にあわせて行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月一回行われる職員会議に利用者も出席し、自分たちのしたいこと、行きたいところ等を話してもらい、行事の企画なども一緒に決めている。職員も利用者それぞれの生活歴や身体能力を考えて支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物等利用者で話し合っ出て出かけている。出かけるときに職員は少し離れて後からついて行き、信号がある場所では、安全に渡れるのを見守りながらついて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員とも事業所内に利用者を閉じ込めることの弊害を十分に理解しており、日中は鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施している。消防署の指導を得て、避難場所も決めている。また向かいにある大型スーパーが24時間営業なので、非常災害時の応援をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託業者が調理した物を食べており、栄養バランスは考えられている。毎月の体重管理もされており、水分の確保にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には四季を感じさせる植物がおかれている。壁面も過度な飾りつけも無く、写真等が飾られていた。グループホームは2階にあり、エアコンをつけずに窓をあけていた。心地よい自然の風が流れ、何時までも居たくなるような気分であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	亡くなられた方の位牌を飾り、毎朝ご飯をお供えしてお参りしている方、以前ラムネの販売をされていた方は、ラムネの瓶を花瓶にしていたり、懐かしいもので部屋を飾り居心地よく過ごせるよう工夫をしていた。		